

各領域の戦略

領域	2026年度の到達目標(戦略の狙い)	2026年度の目標
1. 教育		
① 3つのポリシーとコンピテンシーの実質化	カリキュラムをポリシーに基づいて再整理し、効果的な教育方略を構築する	1) 教育WSの開催(1回)と次年度以降のカリキュラムの検討 2) カリキュラム研修WSの実施計画 3) 試験問題作成WSの開催 4) 各種FD(歯科医学教育セミナー、教員オンラインテスト等)の開催 5) リサーチマインド養成のためのカリキュラム推進や卒業論文を研究部と連携の上の積極的奨励 6) 教育成果に関する第三者評価の実施 7) 共用試験の適切な実施(教員へのFD、修学指導方針説明会での説明、学内における模擬患者要請、評価者認定講習会の継続的受講)
② 入試制度の見直し	2040年問題を見据えた学生募集戦略の必要性があるため、本学の教育内容と親和性の高い学生を安定的に確保する	1) 入試制度について検討を継続(入試検討委員会の開催)
③ 高大接続教育の充実	・全入時代における入試環境の変化を踏まえ、多様な学力・背景を持つ学生が意欲を持って学修に取り組めるよう、入試、高大接続、入学前後教育を一体的に再構築する ・SSHなど先進的な理数教育に取り組む高校と連携し、高校生の歯科医療に対する興味・関心を高める	1) 糸魚川市との包括的連携に関する協議会の開催(2回)および協定に準じた取組(大学・短期大学による高校生等を対象とした多様な学びの機会の提供、教職員相互の交流・研修、糸魚川市民の歯と口腔の健康増進に関する事項)
④ 国際コミュニケーション力の育成	グローバル化が進む社会において異なる価値観を前提に合意形成・協働できる力を育成する	1) 教育WSでの検討を踏まえた、英語教育の充実(シラバスへの明記) 2) 海外の歯科大学の教員や学生と互いの国の文化や歯科界について理解を深め、広い視野を持った歯科医師を養成することを目的としたElectiveStudy・海外研修の充実化
⑤ 歯科界のリーダーとなるためのキャリアパスの構築	本学のコンピテンシーに則り歯科医療・歯科界を将来にわたり支え、牽引できる人材を育成する	1) 卒業生を対象としたアンケートの実施 2) キャリア支援教育の充実(3年生に対するキャリアセミナー)
⑥ 大学院教育の高度化と国際化に基づく研究人材育成	将来を見据え、国際的な研究環境において主体的に活躍できる次世代研究人材を育成する	1) 学術振興会特別研究員等への応募 2) 海外との共同研究の推進 3) 姉妹校への短期滞在による共同研究の推進
⑦ 学生の生活支援の充実	学生が安心・安全な環境のもとで修学に専念できるよう、修学上の安全管理を含めた生活支援体制を充実させる	1) 学生生活に関する問い合わせ窓口の周知(ホームページの改正) 2) 学生への危機管理に啓蒙・セミナーを実施 3) 照明器具のLED改修工事、女子トイレ増設など教育環境改善の継続 4) キッチンカー導入によるランチ環境の充実および利便性の向上
⑧ 生涯教育	臨床に生かせる知見・情報を継続的に発信し、卒後を含めた生涯にわたる学修を支援する	1) 同窓会主催のTDCアカデミア2026への協力 2) 同窓会との共催によるリカレント教育セミナーへの協力
2. 研究		
① 口腔科学研究センターを中心とした研究の集約化と研究支援体制の充実	新たな東京歯科大学研究プロジェクトの体制構築・推進	1) 2026年度から新たに始まる次期ウェルビーイングプロジェクトを推進する。 1)-1 チーム研究: チームは4チームで構成される。各チームリーダーを中堅研究者とし、講座の垣根を超えたチーム研究の推進を図る。研究推進体制については、推進委員会を設置し、研究体制を定期的に評価し、研究の実効性を維持する。 1)-2 重点的研究: 研究展開部門と社会実装部門を置く。研究展開部門は公募制とし、選定された中堅研究者が中・大型研究費を申請・運用できる能力の育成を図る。社会実装部門は公募制とし、研究成果に基づく社会実装を目指した中堅研究者の育成・強化を目的とする。 1)-3 その他の支援(若手研究助成、大学院生研究助成、トラベルアワード、英文校正費助成、東京歯科大学学会発表奨励賞など)を行う。 2) 口腔科学研究センターワークショップを開催する。
② 研究における学内外の連携体制の強化	東京歯科大学研究プロジェクトによる学内連携 「大学間連携等による共同研究」による学外共同研究	1) 口腔科学研究センターを拠点として、全学横断的な研究に取り組み、その成果を産学連携を通じて社会実装へと繋げる活動を推進する。
③ 研究成果に基づく知財創出と産学官連携推進のための体制構築	口科研の研究推進支援部と産学連携支援部の体制強化	1) FD等を通じた知財・産学連携に関する情報提供・意識啓発を推進する。 2) 知的財産の創出を目指した研究支援の充実を図る。

各領域の戦略

領域	2026年度の到達目標(戦略の狙い)	2026年度の目標
3. 国際化		
① 教員と学生の国際交流の推進	国際交流を通じた学生研修プログラムの質的充実を図る	1) 姉妹校、学術協力協定校との連携強化 2) Elective study、海外研修の実施計画 3) 他大学との姉妹校協定または学術協力協定締結へ向けての準備
4. 医療		
① 高品質の医療提供	医療システムから得られる情報を分析・活用し、患者サービスの向上と各診療科の特色ある医療の充実を通じて、大学附属医療機関としての社会的評価を高める	1) 戦略的な病院経営を分析する体制の構築 2) 医療デジタルトランスフォーメーション(DX)のさらなる推進 3) デジタルデンティストリーの積極的な活用 4) 研究成果に基づいた新技術の社会実装に向けた検討(or課題の整理) 5) 安心・安全な医療を実現するための教職員教育の継続 6) 医療倫理に対する教職員の意識向上の徹底 7) 医療事故防止のため病院間相互チェックを実施 8) 施設の効率的な運営を推進するために、診療科等のセグメント別収支の検証を実施
② 附属医療機関を中核とした病病・病診連携体制の強化	附属医療機関を中核に、後方支援として連携医との円滑な患者受け渡しと医療DXの活用を通じ、持続可能な病病・病診連携体制を強化する	1) 水道橋病院と千葉歯科医療センターにおける病診・病病連携のさらなる強化(医療連携報告会と意見交換会の対面での開催・地域歯科医師会との医療連携に係る協定の締結)
③ 臨床研究の推進	各分野において独自性・先見性の高い臨床研究を推進し、本学の強みとなる知見の創出と医療・教育への還元を図る	1) 2026年度から新たに始まる次期ウェルビーイングプロジェクトを推進する。 1)-1 チーム研究: チームは4チームで構成される。各チームリーダーを中堅研究者とし、講座の垣根を超えたチーム研究の推進を図る。研究推進体制については、推進委員会を設置し、研究体制を定期的に評価し、研究の実効性を維持する。 1)-2 重点的研究: 研究展開部門と社会実装部門を置く。研究展開部門は公募制とし、選定された中堅研究者が中・大型研究費を申請・運用できる能力の育成を図る。社会実装部門は公募制とし、研究成果に基づく社会実装プロセスの構築
④ 建学の精神を具現化する歯科界のリーダーとなる医療人材育成	リベラルアーツを身につけることで幅広い教養と高い倫理観を備え、歯科界を担い社会に貢献できる医療人材を育成する	1) 学部学生や新卒のドクターに対して、キャリアパス、地域社会への貢献を示す機会の設定 2) 各学会認定医・専門医・指導医等の資格取得のための支援体制の充実 3) 2施設の特徴を有した臨床研修プログラムおよび医局員研修プログラムの充実 4) 協力型臨床研修施設に対する管理の徹底と質の充実

各領域の戦略

領域	2026年度の到達目標(戦略の狙い)	2026年度の目標
5. 社会貢献		
① 知財創出と産学官連携推進のための体制構築	研究成果を特許等の知的財産として適切に創出・保護し、産学官連携による社会実装につなげる体制を構築する	1)FD等を通じた知財・産学連携に関する情報提供・意識啓発を推進する。 2)知的財産の創出を目指した研究支援の充実を図る。
② 地域連携	教育・研究成果を地域社会に積極的に発信し、社会実装および生涯教育を通じて地域社会への貢献を図る	1)千代田区との連携の強化 2)町内会とのP-com等の交流の維持・強化 3)附属医療機関による病診連携を通じて医療提供体制の構築
③ 公的機関の審議会等における発信力の強化	公的機関等における委員活動を組織として継承し、大学・附属医療機関としての発信力を高める	1) 公的機関の審議会等における委員就任のための支援 2) 公的機関の審議会の委員や学会の役員などの就任状況の把握
6. 教学マネジメントとガバナンス		
① 迅速かつ適切な意思決定の仕組み	内部質保証体制の枠組みに基づき、教学マネジメントを通じた迅速かつ適切な意思決定を実現する	1) 法人と大学との連携強化のための定期的な会合の実施 2) 法人の中期計画に基づいた大学のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの点検
② 効率的かつ柔軟な人材配置	各部署での戦略的な人材配置を基盤として、大学全体の価値観と連動した人材の有効活用を図るとともに、外国人・女性教員を含む多様な人材の活躍を促進する	1) 教員・職員の適正配置 2) 事務組織の再編の検討 2) 女性教職員のキャリアパス支援を継続的に検討 3) 教職員の多様な働き方に対する柔軟な対応
③ FDとSDの推進	教職員の資質・能力を組織的に高め、教育・研究・医療・運営の質向上を継続的に支える人材基盤を強化する	1)SDおよびFDの充実化と履修率向上 2)管理職へのワークショップによるマネジメント力強化
④ 教職員の評価	妥当性の高い評価基準に基づく教職員評価を通じて、人材育成および組織力の向上を目指す	1)教職員のエフォートに基づいた評価の実施 2)教員評価をフィードバックできる体制の構築
⑤ 教育研究環境の整備	勤怠管理の適正化を含む教育研究環境の整備により、教職員の働きやすさと教育・研究の質向上を両立させる	1)教員のフレックス1か月制導入による勤怠管理の適正化 2)人事管理システム導入による申請書類のペーパーレス化 3)健康管理時間の把握
⑥ ICTの強化と情報security	教育DXおよび業務DXを推進するため、ICT環境の高度化と情報セキュリティの強化を通じて、教育の質向上と業務の効率化を図る	1) 情報セキュリティインシデント対応を行う組織(CSIRT(Computer Security Incident Response Team))の設置を見据え、各拠点における連携窓口部門の設置を検討 2) 事務部門の基幹業務DX化の推進 3) 学術無線ネットワークの用途別帯域制御による効率化 4) 情報システム管理体制の見直しと確立 5) Google Workspaceを利用した業務の効率化
⑦ 将来計画	教育・研究におけるDX化ならびにAIの導入を積極的に推進し、歯科医学の近未来に対応できる人材育成と研究の効率化を図る	1) デジタルデンティストリーのカリキュラムへの導入 2) 学生実習へのシミュレーション機器の導入 3) 研究用AIの全学的導入とそのための倫理教育 4) 上記の実績をリアルタイムにHPで公開